

第24回 全国街路事業 コンクール応募資料

平成24年2月

応募者名：長崎県長崎振興局

事業の名称：都市計画道路 浦上川線整備事業

実施都市名：長崎県長崎市

事業目的

当路線は、長崎中心部の南北交通の幹線軸である国道202号、206号の慢性的な交通渋滞の緩和と、地域高規格道路長崎南北幹線道路の一部として地域間の交流促進、連携強化を目的とし計画された幹線道路である。

事業概要

事業名称:都市計画道路浦上川線整備事業

路線名:浦上川線

事業箇所:長崎市松山町～元船町

事業延長:3.25km

幅員:16.5m～40m、4車線及び6車線(緩速車線を含む)

事業費:約676億円

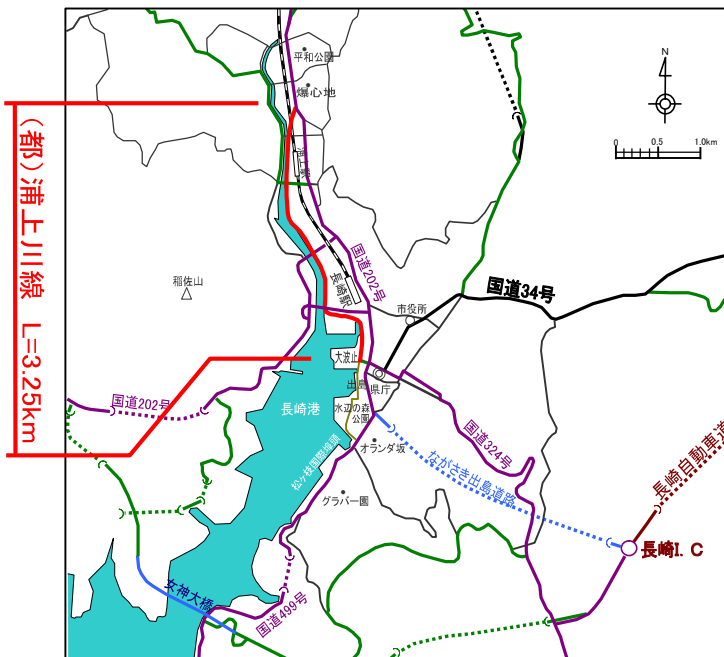
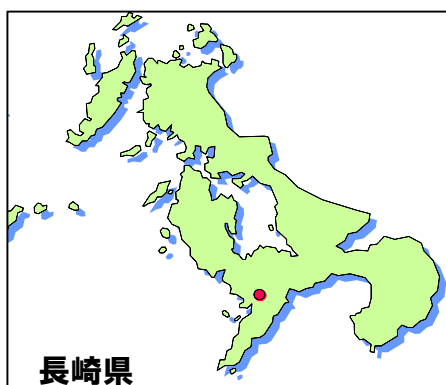
事業実施期間:昭和50年～平成22年

本事業は、被爆地長崎のシンボルである平和公園付近を起点とし、浦上川左岸沿いに陸の玄関口であるJR長崎駅の西側を通過し、終点は海の玄関口となっている長崎港大波止、松ヶ枝国際埠頭、さらには鎖国時代にわが国で唯一、西洋との窓口であった出島地区付近に至る新たな道路整備である。

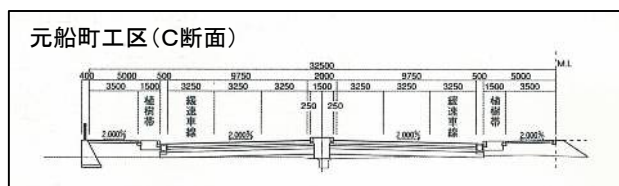
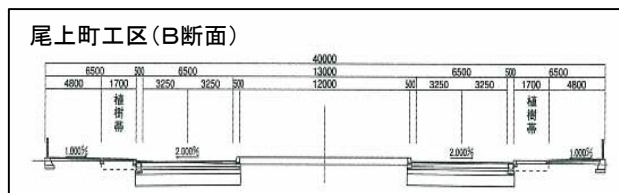
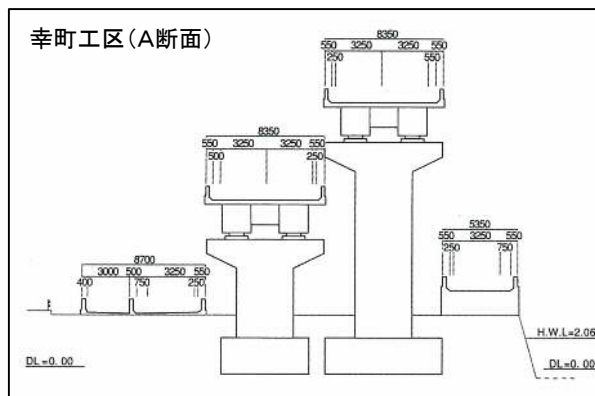
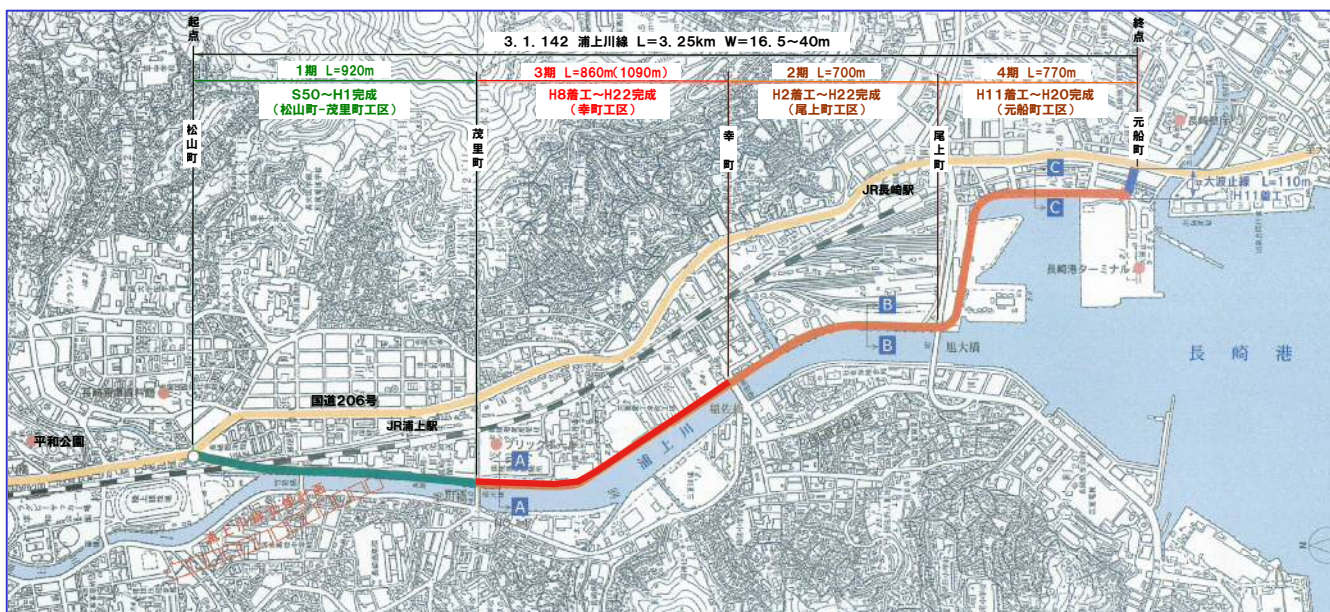
そのため、長崎港周辺部は特に景観に配慮したデザインとするために歩道空間の高質化に力をいれた。また、松山町から幸町にかけては2つの高架橋で、JR線、路面電車軌道、交差点を立体交差することでスムーズな走行空間を確保している。さらに河川上に張出した上下線分離の2層構造とすることで下水処理場の大規模物件の移転補償を回避し、極力、河川への張り出し幅も抑えている。

平成22年11月の全線開通により、国道の交通負荷が軽減され、朝の渋滞が解消されている。

事業位置図

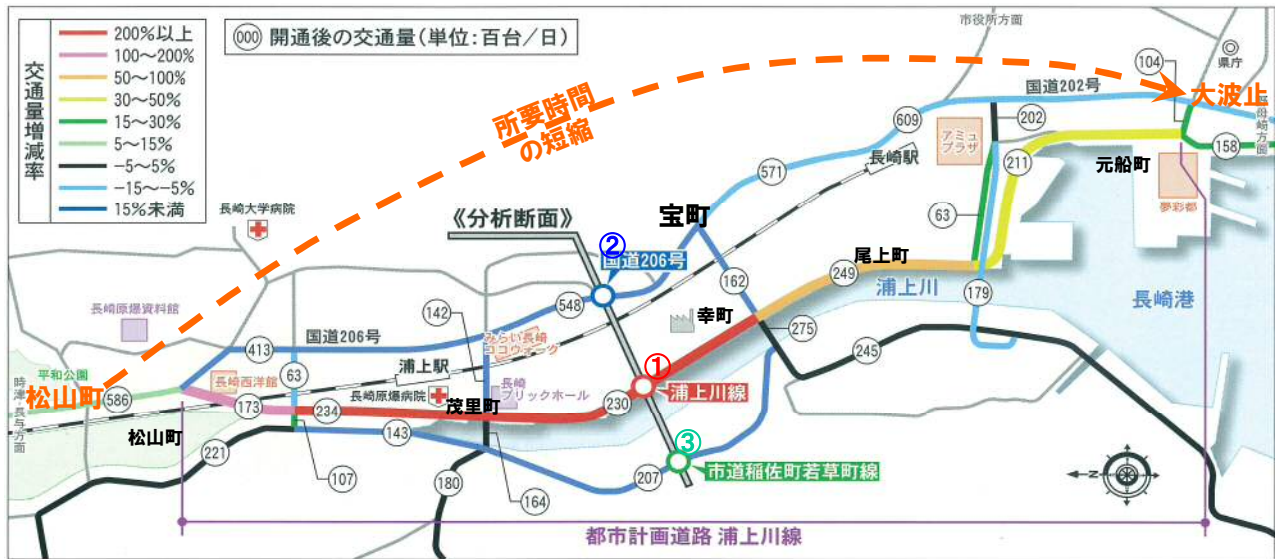


全体図(平面図, 断面図)



浦上川線の整備効果アピール資料

▶長崎市中心部の交通渋滞の緩和と都市景観の向上



【事業概要】

事業名:都市計画道路 浦上川線整備事業
 路線名:浦上川線
 事業箇所:長崎市松山町~元船町
 事業延長:3.25km
 幅員:16.5m~40m(4車線)
 総事業費:約676億円
 事業期間:S50~H22

【交通量調査結果】

供用前 平成22年11月16日実測
 供用後 平成23年3月8日実測

① 浦上川線 → 23,000台 (新規)

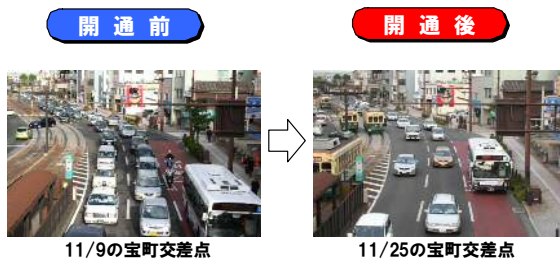
② R206 66,200台 → 54,800台 11,400減

③ 市道 25,600台 → 20,700台 4,900減

→ 並行する国道で17%減、市道で19%減
 その他周辺道路の交通量が減少

【所要時間が大幅に短縮】

平成22年11月21日の全線開通に伴い、朝の渋滞が解消され、国道松山町交差点~大波止交差点までの所要時間が大幅に短縮。



所要時間の短縮 (朝のラッシュ時)

松山町から大波止まで所要時間 15分程度

浦上川線利用で 9分程度 (約6分短縮)

国道を利用しても 8.5分程度 (約6.5分短縮)

【都市景観に配慮】

県では長崎港周辺の都市再生を掲げ「環長崎港地域アーバンデザインシステム」を設置し、長崎港周辺で実施される事業についてアーバンデザインの専門家の意見をもとに、質の高いデザインを創出し、魅力的な都市景観の創造を進めている。本事業においても同システムを活用し、歩道空間のデザイン性を重視した街路整備を行った。



事業前写真



幸町工区
着手前の工場等



平成14年3月撮影



尾上町工区
JR長崎駅西側
(暫定2車線)

平成16年5月撮影

元船町工区
埋立前の港湾
施設



平成16年8月撮影

事業後写真



幸町工区
浦上川高架橋完成



平成23年10月撮影



平成22年11月撮影

尾上町工区
4車線完成

元船町工区
港湾施設と一体的な歩道空間



平成24年1月撮影